

横書き書籍においては、本文の任意の箇所に対して補足的な情報を付記したい場合、その本文と同一ページの最下部に「脚注」<sup>†1</sup>として補足情報を組版することが多い。

<sup>†1</sup> ここでは、補足情報をページの左右余白に配置する「傍注」、章末や巻末に配置する「後注」、行間に配置する「行間注」<sup>†2</sup>などと「脚注」を区別していることに注意。

<sup>†2</sup> 段落末に配置する「段落注」も行間注の一種とみなせる。

T<sub>E</sub>X 系の組版システム<sup>†3</sup>では脚注を簡単に利用できる。とくに L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で用意されて<sup>†3</sup>以降では単に「T<sub>E</sub>X」と表記する。

いる標準的な`\footnote` コマンドは、さまざまなパラメーターを設定するだけで、脚注に対する組版上のさまざまな要件を簡単にカスタマイズできるようになっている。